

健康

質問

乳がんが診断されて、乳房の温存手術を受けました。その後、放射線治療を受けることになっています。放射線治療にはどんな副作用がありますか。日常生活で気を付けることは何ですか。

放射線治療の副作用



伊井 智子
徳島大学病院
がん放射線療法
看護認定看護師

回答

乳がんとの診断を受け、手術から放射線治療に移行する中、不安や心配があると思います。

放射線治療では温存した乳房や周囲のリンパ節からのがんの再発を防ぐことが期待できます。放射線治療によって、乳房内の再発が3分の1に減少するとされています。治療前に副作用などをよく理解することで不安を軽減できればと思います。

手術後に傷がふさがり、腕の上下がある程度スムーズにできるようになったら放射線治療を始めます。治療回数は30回、1回の照射時間は数分。着替えなどの時間を含めても約10分です。1日1回、月曜から金曜まで週5日連続で治療を行

照射部位の皮膚保湿を



います。両腕を上げた姿勢で、手術した側の乳房全体に放射線を当てます。痛みや熱は全くありません。

放射線治療の副作用で注意が必要なのは、放射線を当てた照射部位の皮膚の症状です。治療の後半から照射部位が少し赤

くなったり、ぴりぴりしたり日焼けと同じ症状が出ます。治療終了から約2週間でピークになり、その後、徐々に回復します。やがて元に戻ります。

日常生活での注意点はスキンケアです。皮膚を清潔にして保湿することで症状の悪化を防ぎます。照射部位を保護するために、吸湿性のいい木綿の下着や、ゆったりした下着(ワイヤーのないブラジャーなど)を着用し、外出時は日焼けしないよう気を付けてくださ

い。皮膚のかゆみを感じても皮膚をかかないことが大切です。照射部位の皮膚は弱くなっているの、ばんそうこうや湿布は貼らないようにしましょう。自己判断による薬や化粧品の使用も避けましょう。体を洗う時は皮膚を強くこすったりしないよう注意してください。

つらい皮膚症状は担当医に相談し、軟膏などの処方を受けましょう。数カ月で皮膚の色は元に戻ります。とはいえ、回復には個人差があります。治療終了後もスキンケアを継続してください。

放射線治療は通院で受けられます。ただし、通常は平日に毎日通う必要があるの、仕事をしている人は受け付けや会計、通院時間を含めた治療時間の計画を立てましょう。治療を受ける際の不安や疑問に思うことは、医師や看護師に相談してください。

(第4土曜掲載)



イラスト・伊藤 司郎

湿布や化粧品避けて

がんに関する質問は徳島がん対策センター〈電話 088(634)6442〉(平日午前8時半から午後5時まで)へ。

